

## 気候変動対策・政策のギャップの理解と今後の対策の展望

主要先進国の温室効果ガス排出量は低減傾向にあるものの、世界排出量は引き続き上昇傾向が見られる。その中で早期のカーボンニュートラル実現を目指しており、その難しさを直視した上で、これまでと異なったアプローチも必要である。COP28 のグローバル・ストック・テイク(GST)の決定文書においては、「パリ協定の内容を踏まえ、各国それぞれ異なる国情、経路、アプローチを考慮し、各国ごとに自ら決定した方法で、以下の世界的努力への貢献を要請する。」とされた。政治的な意志としての意欲的な 1.5℃目標や 2050 年カーボンニュートラル目標と、現実としての大きなギャップを理解した上で、トランジションを含め、より柔軟で実効ある気候変動対策を展望する。